

持続可能な森林経営研究会

<http://sfmw.net/>

森林施業の問題点等に関するアンケート調査

課題1 森林情報の把握、内容、取り扱いについての問題点と対応

森林調査簿が最も得やすい森林情報なのだが、地域によって内容と乖離している場合も少なくない。そのため、現地担当者による踏査での把握が重要である。
現地踏査は、精度の高い情報の把握につながる反面、時間と労力、及び適切な管理と情報の保管・共有化が重要な課題である。
また、隣接所有者の情報取得や、その管理方法についても、適切な手続き、情報漏洩しない為の体制づくりが必要である。

課題2 目標とされている森林施業のあり方に関する問題点と対応

経営者と担当者（現場）とが共通した目標をもつことが「ブレのない森林施業」の第一歩である。
今までは、生産を意識した森林施業が主流であったが、企業活動、社会貢献、環境保全といった生産以外の観点で森林施業を見られるようになってきている。
社内に関しては、上記の通り共通した方向性と認識を共有することが大切である。
対外的には求められている「森林のあり方」を尊重しつつ、本来のあるべき姿としての森林「持続可能な森林経営」を意識していく必要があると思う。

課題3 森林計画の体系、内容等に関する問題点と対応

国のゾーニングによる森林計画の体系だけでは、3区分とはいうものの、実態はかなり漠然としている。
都道府県による森林の機能や施業方針（長伐期や複層林等）を加味し、現況を把握した独自の体系や内容を構築する必要がある。
しかし、独自の体系では森林計画全体の対比（地域単位等）は難しい上、体系作りの情報収集に時間や労力も多くかかる。
まずは、内容の精査と分析が必要で、最低でも地域（都道府県）単位で統一した区分けが求められる。

課題4 森林計画の実行、森林施業の実行に関する問題点と対応

補助金無くして、現状の造林保育は厳しい。
そのため予算配分の結果、計画していても配分されないために事業を先送りする事がある。
また、森林の整備に対して、公的な役割を林業関係者以外にもっと理解してもらい、未だに伐採＝環境破壊といった誤認識の解消に努める必要がある。
公的資金の導入→収穫時の収益は所有者がおかしいという意見に対しても、保育事業に係

持続可能な森林経営研究会

<http://sfmw.net/>

る個人負担額が多く発生している実態も周知されていない。

計画や施業の実行に対し、積極的に森林経営を意識している所有者や団体にしっかりと配分できるような仕組みが必要である。

次に、労務について、近年の不況により第一次産業に就労の目が向けられてきているが、簡単に作業従事して一人前に作業をこなすことは難しい。また、安全や労働衛生の問題もクリアする必要があり、高齢化も解消されていない。

事業をしたくても労務不足により実施できない等の問題解消には、まだまだ時間がかかる。環境活動や地域貢献活動、雇用創出を意識し、計画や施業の実行に努めていく必要がある。

課題5 その他（自由にご意見を）

生産を意識した山づくりについて、どのような材が求められているのかを、所有者等がしっかりと見据えることが重要である。

ただし、収穫までの時期が他の産業と異なり、何十年もかかることから、長期的なビジョンと、現況に応じた修正を行う必要がある。

そのための情報収集は単独では限界があり、それぞれの関係団体とが横のつながりを持ち、それぞれをつなぐ役割を担い、多くの情報を発信できるシステムを構築していくことも重要だと思う。